

2024年度 すくわくプログラム実践記録

園名：おうち保育園ごたんだ

保育理念

わたしたち保育園は、みんなの未来をつくることに
自ら参加し、貢献し、そして楽しむ心を育みます。

保育目標



共感性

自分の気持ちを大切にし
他者の気持ちも大切にする
こども



内発性

自らの内なる声を聴き
主体的に動くこども



創造性

自由に考え
創造するこども

シチズンシップ保育5つの基本

1. 感情を知る
・感じる

2. やってみたい
はチャンス！

5. 対立は当たり前。
話し合っ解決する

3. 小さなことでも
自分で決める

4. わたしはわたし
違うことを認め合う

1,活動のテーマ

<テーマ(子どもたちの興味・関心を深める)>

「種(たね)」

<テーマの設定理由(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)>

子どもたちが「種」の絵本を見ていたが、今まで見たことがある種でも「種から芽が出る」ということについては「これなに?なんで?」と、理解できない姿があった。種とは何か、さまざまな角度から子どもたちの興味関心を刺激し、自然への理解を深める。

2,活動スケジュール

- 2024年10月：【種をさがす①】
野菜や果物など、身近なところで「種」をさがす
- 2024年11月：【種をさがす②】
散歩など戸外で「種」を見つける
- 2024年12月：【種をさがす③】
散歩など戸外で「種」を見つける
- 2024年1月：【種で遊ぶ】
種で遊ぶ
- 2024年2月：【種を食べる①】
動物が種を食べられる仕掛けを作る
- 2024年3月：【種を食べる②】
動物が食べる様子を観察する

【実践記録】

日付	2024/10/17
「問い」	【種をさがす①】 野菜や果物など、身近なところで「種」をさがしてみよう
環境のデザイン	<ul style="list-style-type: none">・「食育」での関わりとして食材を触る体験の中で、種がある野菜「かぼちゃ」を入れる・かぼちゃの種を発芽させたものを見せ、種から根や葉が出ることを視覚的に伝える
探究活動	<ul style="list-style-type: none">・ごぼう、れんこんを触った後、1歳児クラスがかぼちゃの種を見て「これなに？」と聞いてきた。・かぼちゃの種を指で掘り出す作業を実施したところ、2歳児クラスは種の周りの果肉がグニョグニョしている事を嫌がり、2粒目から触ることを拒んでいた。1歳児もおそろおそるといった様子でほじくっていた。0歳児クラスの1名は飽きることなくすべての種をほじくり出していた。・保育者が種から根が出たかぼちゃ、双葉のかぼちゃを見せた時の声 保育者「種から根っこが出てきているよ」 2歳児「(びっくりした様子で見ながら) えええ～」 保育者「種から葉っぱが出てきて大きくなります」 1歳児「はっぱだー」「たねほじほじしたい」
活動の様子	   
振り返り	<ul style="list-style-type: none">・ごぼうやれんこんとくらべても、種があるかぼちゃへの興味が高かった。・かぼちゃを知っていたこどももいたが、かぼちゃの種のはあまり知らない様子で、種を掘り出すことをすすめても慎重になるこどもが多かった。

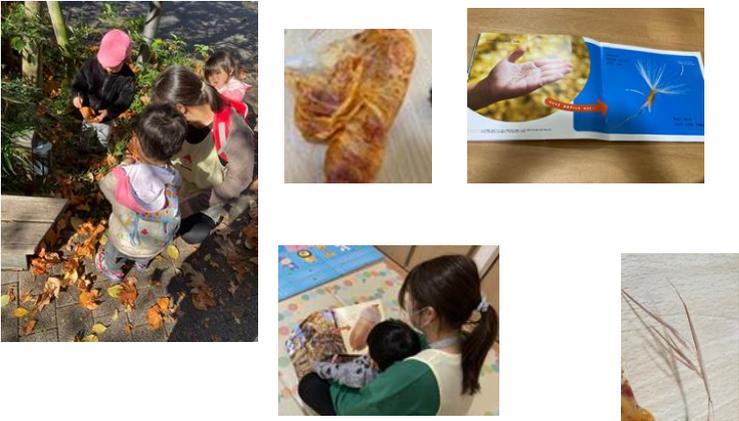
	<ul style="list-style-type: none"> ・その中でも0歳児クラスのこどもが、にこにこ笑顔でかぼちゃの種をほじくり出していたのが印象的だった。 ・掘り出した種は、鉢植えにして葉っぱが出るか試そうとこどもたちと話した（後日、種にカビが生えてしまったため断念） ・当日は反応が静かだったため興味がなかったのかと思っていたが、数日後「たねほじほじしたい」や給食にかぼちゃメニューが出ると「たねあった」と思い出すこどもたちもいて、心に残る体験だったと考えられた。
--	--

日付	2024/11/1～11/30
「問い」	<p>【種をさがす②】</p> <p>散歩や遠足など戸外で「種」を見つける。拾って集めてみる。「赤い実をさがしてみてね」「これと同じものはあるかな？」などお題を出して探索しやすくした。</p>
環境のデザイン	こどもたちが持ちやすく、中身が見やすい透明ビニール袋を持たせ、実が落ちている公園への散歩を増やした。
探究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者「赤い実あったかな？」 1歳児「ここある！」 保育者より早く見つけるこどももいた。 ・保育者が松ぼっくりを見せて「これと同じものがあるといいんだけど」と言うと、2歳児が公園内を探索し「これかな？」と持って来た。
活動の様子	   
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・お題を出したのは2回ほどだったが、その後は散歩に行くときさまざまな実や種を拾ってくるブームが起きた。 ・散歩後は、保育園で留守番をしていた保育者や園長に見せるまでがセットになった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・もともとどんぐりなどの実を捨ってくるのが好きな子どもたちだったが、「赤い色」などお題を出すとさらに意欲が増していた。さらに、その場にいなかった保育者に捨ててきたものを見せ反応を得ることが嬉しくなり、さらに捨てることに意欲が出ていたと考えられる。 ・「赤い実を捨てるブーム」が起きたことで、花壇や植え込みの唐辛子の赤い実を摘もうとする子どもが出てきてしまったため、子どもたちに捨てるはいけない実を教えることとなった。保護者にも唐辛子の実の写真を掲示し、触らせないように注意を促した。
--	--

日付	2024/12/1～12/31
「問い」	<p>【種をさがす③】</p> <p>散歩など戸外で「種」を見つける。 子どもたちが予想以上に戸外での種や実の探索ブームが続いたため継続した。 子どもたちに捨ててきたものを保育者が調べると伝えると、名前を知りたがった。</p>
環境のデザイン	子どもたちが持ちやすい透明ビニール袋を用意する。
探究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・黒い実を捨ててきた子どもに「オリーブの種だよ」と伝えると、翌日以降も同じオリーブの種を捨ててきた。 ・別日の散歩時には、1歳児の子どもたちが別の黒い実を捨てて「これなに？おーいぶ？」「ブルーベリーだよ」と子ども同士で話していた。「せんせい、これなに？」と聞いてきたため調べ、「つげの実みたいだよ。食べないでね」と伝えた。
活動の様子	  
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳児クラスの子どもたちの中には、「くろいのさがす」と自分なりに目標を持って探す姿があった。 ・捨てた種や実を保育者に見せて名前を知りたいことを熱心にする姿があった。 ・植物図鑑を使い自分で種や実の名前をさがすことを試したこ

	<p>どももいたが、保育者が補助しながらでも調べることが難しかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの学びの意欲のためにも、市販の図鑑だけでなく、保育園の周辺地域にある植物などの情報を用意しておく必要性があった。
--	---

日付	2025/1/1～1/31
「問い」	<p>【種で遊ぶ】 拾ってきた種や実を使って遊ぶことを提案する。 どんぐりの皮むき、種を土に埋める、飛ぶ種を飛ばすなど。</p>
環境のデザイン	<p>こどもたちが持ちやすい透明ビニール袋を用意する。 砂場など掘って埋めやすい場所に行く。</p>
探究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・1歳児クラスが種や実を使って遊ぶことに夢中になる姿が多く見られた。 ・袋に入れた実をすべて潰すことが楽しくなっていたこどももいた。 ・本「あきのたね」にあった飛ぶ種に似たものを見つけて、息を吹きかけて飛ばそうとする姿があった。 ・拾ってきたどんぐりの皮を丁寧に剥いて遊んでいた。
活動の様子	
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・潰すこと、埋めること、飛ばすこと、皮を剥くこと、を遊びとして一度経験した後は、繰り返し夢中になって遊ぶかはそれぞれのこどもによって違っていた。 ・種や実を拾うことはほとんどのこどもたちが夢中になっていたことから考えると、それを使った遊びによって熱心さが違うことはこどもの個性によるものではないかと興味深かった。 ・本「あきのたね」は、2歳児クラスが興味を持って読んでいたが、その後1歳児クラスのこどもたちも何度も読んでいます。繰り返し読むことで理解が深まり、戸外活動時に見つけた実際の種や実とつなげることが出来てきていると考えられる。

日付	2025/2/20～
「問い」	<p>【種を食べる①】 動物が種を食べられる仕掛けを作る。 保育園のベランダに鳥が来ていることを知らせ、鳥が何を食べるか質問を投げかけた</p>
環境のデザイン	トレイ、台、ベランダの防犯カメラ
探究活動	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児クラスのこどもが鳥の食べるものは「甘いもの」と言ったので、鳥が種などを食べる動画を見せた。 ・自分たちが拾ってきた種を食べるかもしれないとわかり、ベランダに置いてみることを保育者が提案すると、「●●ちゃんがたねをおく」と言い、トレイにさまざまな種を置いた。 ・ベランダに設置した台の上に置いたトレイを見て、「とりさんくるかな？」と何度も言っていた。 <p>他のこどもたちもベランダにあることに気づき、「なんでおいてるの?」「とりさんがくるんだよ!」「えー、ほんと?」「たべるかもだから、まつぼっくりおいたよ」「ぼくもやりたい!」</p>
活動の様子	
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児クラスのこどもたちが、ベランダを何度ものぞいている姿を見た1歳児クラスのこどもたちも種を置きたいと言い始めたため、しばらくベランダに種の入ったトレイを置くことになった。 ・2歳児クラスのこどもたちの様子からは、鳥が来るかはわからないが、何かを用意すれば来るかもしれないという期待感を持っていることが感じられた。 ・一方、1歳児クラスのこどもたちはトレイに種を置くという行動への欲求が強くあるようだった。 ・2歳児クラスからは、翌日も「たねをおきたい。とりさんくるから」と要望があった。